

時間と空間上の分布を考慮した、 標本に基づくチェックリストシステム

～ 神奈川県植物誌調査を事例として～

神奈川県立生命の星・地球博物館 大西 亘
e-mail: wohnishi@nh.kanagawa-museum.jp



● 背景

近年、生物多様性地域戦略策定やその推進、地域の自然環境保全の根拠として、自治体環境行政においても様々な場面で生物多様性情報を取り扱うことが求められている。一方、生物の生育（生息）情報は、野外で情報を収集することはもちろん、集められた情報の質やその意味を判断する上でも、専門家に依存する面が大きい。専門的知見の介在が不可欠である中で、現場の担当官だけでなく、専門家や地域住民を含む関係者らと生物多様性情報を適切に共有するとともに、必要な際に随時情報の質を客観的に再確認でき、中長期にわたる施策の継続に資するようなシンプルで持続可能な情報共有システムが求められている。神奈川県内の博物館が協力して実施した『神奈川県植物誌 2018』（実施主体：神奈川県植物誌調査会）の調査において用いられた「標本チェックリスト」のシステムは、こうした課題を解決できる一つの方法である。ここではその仕組みと運用方法を紹介し、期待される自然環境行政面での利点と課題について概説する。

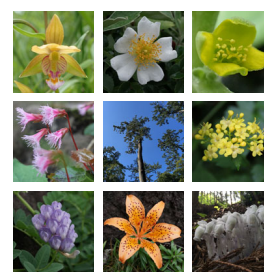
● 方法

- (1) 神奈川県内で過去に採集され、博物館に収蔵されている植物標本の情報を、県内を区切った地理的な区画「調査区」と、「記録（採集）された年」が分かるように整理したデータベースを作成。
- (2) データベースをもとに、記録された植物種ごと（行）、どの調査区に記録されたのか（列）を示す表（＝チェックリスト）に変換。
- (3) 記録（採集）年代は5つの期間に区分し、年代ごとに異なる印を用いて、もっとも近年に記録された年代が明らかとなるよう表示。

◆ ポイント

- ・ 調査区の境界は認識しやすい行政区を基準
- ・ 記録は再検証可能な博物館標本に基づく
- ・ 調査区には、隣接もしくは環境条件の類似する近隣自治体を含める

植物名 記録地 記録年



2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年

なにが どこで いつ

ギンラン	横浜市	鶴見区	2015年
ギンラン	横浜市	鶴見区	1998年
ギンラン	横浜市	鶴見区	1983年
ギンラン	横浜市	神奈川区	1953年
ギンラン	横浜市	南区	2006年
ギンラン	横浜市	南区	1998年
ギンラン	横浜市	南区	1980年
ギンラン	横浜市	保土ヶ谷区	1953年
ギンラン	横浜市	磯子区	2003年
ギンラン	横浜市	金沢区	2010年
ギンラン	横浜市	港北区	2008年
ギンラン	横浜市	戸塚区	2016年

※実際のデータではありません

変換

- 2001年以降 の記録
- 1989年 - 2000年 //
- △ 1979年 - 1988年 //
- * 1968年 - 1978年 //
- † 1967年以前（絶滅） //

調査区（ここでは行政区）

植物名	調査区（ここでは行政区）											
	横浜市	鶴見区	神奈川区	西区	中区	横浜市南区	保土ヶ谷区	磯子区	金沢区	港北区	戸塚区	横浜市緑区
ギンラン	●	●	△	○		●	△	●	●	●	●	●
キンラン												
シロバナキンラン												
ササバギンラン	●	●				○	○		●	●	○	●
クゲヌマラン	●							●				
ヒメノヤガラ												
オノエラン	*					*						
アオチドリ												
サイハイラン	●	○					*	○	●			* ●
スルガラン												
イッサイキョウカ												
シュンラン	●	*	△	△	*	○	●	○	●	●	△	●
カンラン												
ナギラン												
マヤラン	●					●	●	○	○	○	●	●
サガミラン	●											

チェックリスト

記録データベース

● 実現する / 期待される効果

- ・ 探索優先順位の可視化
- ・ 調査者の調査モチベーション↑
- ・ 新たな記録により随時上書きが可能
- ・ 調査区毎の相対的な調査努力量の可視化
- ・ 過剰採集の防止
- ・ 公開共有可能な位置精度

● Q&A

- Q1. 植物以外でも作れる？
⇒ A1. 他の生物分類群にも応用可能です
- Q2. 標本情報以外でも作れる？
⇒ A2. 標本情報以外の客観的証拠でも構築・運用可能です
(ただし、証拠となる情報の種類が混在する場合情報の種類ごとに区別することが望ましい)

公開データで試みに作ってみたい方は、
国内博物館の標本情報を検索・閲覧可能
サイエンスミュージアムネット
(運営 国立科学博物館)



神奈川県内のすべての植物を網羅した
『神奈川県植物誌 2018 電子版』
インターネットで無償公開！

神奈川県植物誌2018 電子版

検索



◆ 個別のご相談も承ります。メール（上部記載）にてご連絡下さい。